

# 桶川市下水道

# 落札業者 議事録になし

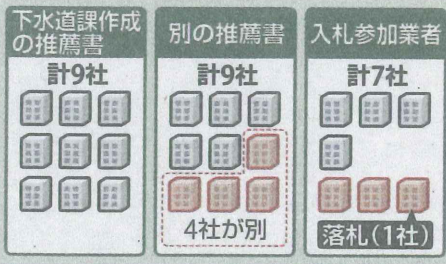
## 推薦書は2通

## 偽造か、上尾署捜査

桶川市が2007年に発注した下水道工事の指名競争入札で、入札参加業者を選定する市の「指名委員会」の議事録に掲載されていない業者が入札に参加し、落札していたことがわかった。この工事の入札をめぐるのは、市が作成した入札参加業者の「推薦書」が2種類あることも判明。元市議(58)は「推薦書が2種類あるはずはなく、偽の推薦書が作成され、官製談合が行われた可能性もある」として08年4月、上尾署に告発文を提出、同署で捜査している。

問題の工事は、同市加納に下水道管を敷設する「公共下水道19-1工区管渠工

### 桶川市下水道問題



事」。入札は07年7月12日に行われ、市内外の建設業者7社が参加した。市の当時の指名競争入札は、担当課が事前に入札参加業者の推薦書を作成。副市長ら6人で作る「指名委員会」が審議して結果を市長に内申し、指名業者を選定していた。

問題の工事では、担当課の下水道課が同年6月12日付で、市内の9社の名を挙げた「業者推薦書」を作成し、同19日に指名委員会が7社を選定した。

しかし、入札に参加した7社のうち3社は、下水道課が作成した推薦書には記載されていない業者で、そのうちの1社、さいたま市内の建設業者が3680万円(落札率約98%)で落札した。

元市議が桶川市に情報公開を請求したところ、下水道課作成の推薦書とは別の推薦書を市財務課が持っていたことが発覚。その推薦書では、9社のうち4社が市外の別の業者に差し替えられており、うち3社は入

札にも参加していた。

さらに、指名委員会の議事録では、推薦業者9社の評価は「Aランク4社とBランク5社」だったが、下水道課作成の推薦書には「Aランク」の業者はなかった。

議事録には当時の市長や総務部長、財務課長らの決裁印があったが、元市議は「つじつま合わせのため、

後で議事録の内容を改ざんした可能性もある」と指摘する。

当時、指名委員会の委員長だった石橋正二郎元副市長(51)は、読売新聞の取材に「覚えていないが、委員会の資料にない業者が入札に参加したことは不可解」とし、当時の総務部長(60)も「推薦書に載っていない業者が入札に参加するのはあり得ない。不思議でならない」と話している。